

1 学校評価より<成果・課題と方策>

① 自他を大切にする子「仲間とつながり、自分を高めよう」

【キャリア：仲間・自分】(人間関係形成・社会形成能力)(自己理解・自己管理能力)

<成果>

- 決められた場での挨拶が進んでできる。
- 地域を知り、地域に学ぶ活動を多く設定することで、ふるさとを大切にすることを全児童がもっている。

<課題と方策>

- 相手にとって気持ちの良い挨拶についてさらに考えさせたい。「笑顔で目を合わせること」を継続して声掛けしていきたい。あいさつプラス気付いたことを言葉にすることを勧めることで、お互いに助け合い、補い合える子にしたい。
- 4人だからこそできることを考え、個人・学校・地域の夢や未来を描き、課題を設定し、計画・実行・発信する場を設定していきたい。

② ねばり強く取り組む子「問題を解決しよう」

【キャリア：解決】(課題対応能力)

<成果>

- 授業の毎時間の見通し、単元全体の見通し、身に付けたい力を子供と共有して授業を進めることで、教師も児童も見通しをもって学習を進めることができた。
- 学習集団の人数に合わせて、教師対児童、児童同士の学び合い、全体での話し合いなど、より効果的な話し合い・学び合いができるような手立てを工夫することができた。
- 個々の実態に応じた支援を行うことで、前向きに自信をもって学習する様子が見られるようになってきた。
- 毎時間、身に付けたい力を子供と共有して授業を進めることで、見通しをもって学習を進めることができた。

<課題と方策>

- 子供同士で話し合い、学び合う形態がまだできているとは言えないため、4人の児童でも学びが深まる手立てを研修していく。
- まだまだ教師を頼ってしまい、まず一人で考えてみようとする姿勢が身に付いていないため、どの場面で教師が支援するか、どの場面をじっくり一人で考える時間にするのかを明確にし、教師が共通理解のもと進めていく。
- 家庭学習に進んで取り組めない子がいたり、「学年×10分」の学習時間が定着していない子がいたりするため、「自分に必要なものを、自分で決めて考え、自分の生活に合わせて」進めることができるよう、個々にあった家庭学習を一緒に考え、学習習慣を身に付けていきたい。
- タイピングの技能をさらに向上させるため、昼活動に「タイピング」の時間を位置付けていく。

③ 主体的に行動する子「夢に近づこう」

【キャリア:夢】(キャリアプランニング能力)

<成果>

- 委員会活動を中心に、創意工夫を生かした活動を進め、ステップアップ作戦会議(委員長会)で活動の擦り合わせやブラッシュアップを図ることで、「自分から」進んで活動する場面が多くみられるようになった。
- 学習カードを活用し、その子に合った目標を立てることで、運動に進んで取り組むことができた。
- 少人数だからこそ運動時間を多く確保できることを生かし、体育の授業の内容を工夫することができた。
- 「ハッピー健康の日」の保健指導や、元気チェックを通して、自分の健康課題を意識する子が増え、蓄積したデータから、自分の健康への関心を高め、傾向を知って自身の健康維持に生かそうとする気持ちが高まっている。

<課題と方策>

- 4人でできる体育での学習内容が限られてくるため、年間計画の洗い出しを行う。個人の技能を高める運動を考えたり、連合教育(光明小授業体験)を上手に生かしたりするようにする。
- 就寝時刻が遅い、朝食を食べないなど、自分の健康課題の改善までには至っていないため、保護者の協力も得ながら、良い生活習慣作りを促していく。

④ 【総括】

<成果>

- 1年間を総じて、子供たちは、目標に向かって様々な活動に取り組み、成長を目指してがんばっている様子が見られた。
- 学校全体の傾向も見るが、今年度は特に、成長と課題、それに対する支援を学期ごとに個々に見ていくことができた。
- いじめ防止基本方針や学校の決まりについて、児童、保護者、学校運営協議会に説明し、意見を求めたり、校内で見直したりしながら、いじめ防止の取組みを進めることができた。個々に抱えている悩みを保護者と連携して支援することで、どの子も、心と体が健康で、楽しく学校に通うことができた。

<課題と方策>

- 「ねばり強く」「主体的に」取り組む姿がもっと見られるとよい。授業や家庭学習への取り組み、行事に向かう目標、運動面などいろいろな場面で、横山小学校の重点目標(キャリア教育の目標)を意識できるように工夫する。
- 個々の成長や課題、支援について、保護者とさらに共通理解を図り、同一歩調で進めていきたい。

2 学校関係者評価より

2月6日(金)に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方法について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

① 委員より

- ・ 「学び合う」ということは、子供たちにとって実感しにくい。学習指導の中で、手立てを工夫していくことが大切だと思う。
- ・ 子供との授業の流れをよい方向へ導いていくことで、教員としても達成感を味わうことができるのではないか。
- ・ PTA活動の中での子供たちは、お互いに学び合っていると感じた。
- ・ いじめに関して、子供たちの様子を先生や親がよく観察することが大事だと思う。
- ・ 「いじめ」はあってはならないことである。横山小の子供たちには、いじめは感じられない。
- ・ 幼稚園等で個々の喧嘩だったものが、小学校に入り多人数となると、いじめに発展してしまうという心配はある。しかし、子供を信頼し、お互いの気持ちを尊重することができるまで、見守ることも大切だと思う。
- ・ 喧嘩をすることで、お互いの意見を言い合い理解することができるため、喧嘩といじめは一緒ではないと思う。親としては、子供たちで解決させ、介入しないよう心掛けている。
- ・ いじめの指導計画を立てること自体、大変なことだと思う。子供たちの逃げる場を作ることも大切なのではないか。
- ・ 「いじめ」は見えなくても周りには存在している。常に気を配り、見逃さないようにしなくてはいけない。

② 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について進めていく。

- ・ いじめ防止基本方針について、保護者、学校運営協議会に説明し、意見を求めたり、校内で見直したりしながら、いじめ防止の取り組みを全職員で引き続き進める。
- ・ 日々の授業を大切にしながら、授業の中での達成感を味わわせるとともに、子供たちの様子に常に気を配り、お互いの気持ちを尊重できる子供になるよう、保護者・地域とともに見守っていく。
- ・ 来年度も、子供たちの意見を大切にしながら、ふるさとを大切に、ふるさとに貢献できる活動を進め、夢や未来に向かって挑戦する子供を育てていきたい。